

案
年月日

學校長

文部大臣官房會計課長宛

官廳建造物ノ電線等ノ轉用ニ關スル件

本月九日付官會九〇號ヲ以テ御照會有之タル標記ノ件左記ノ通回答ス

記

一、電燈設備

寄宿舎在舎生徒ノ器樂ノ自習ハ總ヘテ本校各教室備付ノ樂器ヲ使用セシメ午後九時迄ヲ自習時間トシ又現在ニ於テハ通年動員ニ依ル勤勞生徒ハ毎日勤勞終了後登校シ午後九時迄器樂ノ自習時間トシテ勉學ナサシメ殆ンド全館ヲ使用ナスニ依リ絶對必要ナリ

二、動力設備

該當事項ナシ

三、電熱設備

該當事項ナシ

四、電話設備

該當事項ナシ

五、昇降機設備

〃

六、避雷針設備

〃

七、登退廳表示燈設備

〃

(自昭和十八年度至同二十年度國有財産關係 東京音樂學校會計課)

(十五) 第五十六回卒業式における學校長式辭案 (昭和十九年九月)

學校長式辭案

本日茲ニ第五十六回卒業證書授與式ヲ舉行スルニ當リ卒業生並修了生諸子ニ告グ

曩ニ出陣學徒勇躍壯途ニ上リテヨリ諸子ノ先輩並同輩ハ日夜前線ニ活躍大奮闘シツ、アルノ時、諸子又業ヲ了ヘテソノ後ニ續カントシ、或ハ内ニアリテ文教ノ振興ニ得又戰意ノ昂揚ニ挺身奉公セントスルハ洵ニ同慶ノ至リニ堪ヘズ。然ルノミナラス諸子ハ在學中既ニ勤勞動員ニヨリ直接生産戰ニ參加シ學徒タルノ眞面目ヲ遺憾ナク發揮セルハ余ノ最モ満足スル所ニシテ衷心ヨリ感謝ノ意ヲ表スル次第ナリ。

今ヤ皇國ノ興廢存亡ノ危急ニ際シ、帝國議會ニ於テ優渥ナル御勅語ヲ賜フ。一億國民恐懼感激措ク能ハザル所、我等ハ愈々憤激ヲ新タニシ、世界無比ノ國體ヲ護持シ、神聖ナル皇土ヲ防衛シ、速カニ暗雲ヲ拂拭シ以テ皇威ヲ世界ニ顯揚セザルベカラズ。戰局ハ益々緊迫化ヲ加ヘ、我等ハ大東亞ノ復興トアジア十億ノ民生ノ運命ヲ擔ヒテ正ニ最後ノ關頭ニ立ツニ至レリ。一切ヲ天皇ニ歸一シ奉ルハ我等皇國民ニノミ課セラレタル光榮アル至上命令ニシテ我等不動ノ信仰アリ。ソノ任務完遂ノ幽遠ニシテ高大ナルニ比スレバ、一身ヲ君國ニ捧グルハ尙易ク、コレゾ眞ニ死生ヲ超越セル悠久ノ大義ニシテ、七度生ル、モ尙足ラザル所ナリ。我等ハ一切ヲコノ嚴肅ナル現實ノ「今」ニ直瞰結集シテ、乾坤一擲ノ一大決戰ニゾミ、我等自ラ神風トナリテ敵米英ヲ擊滅セン。モトヨリ明日アル生命ヲ賴マズ、皇

國永遠ノ繁榮ノ爲メ自ラソノ礎石タランコトヲ誓ハンノミ。

諸子克ク皇國民タルノ自覺ニ徹シ、眞ニ不退轉ノ覺悟ノ下、一死君國ニ奉ジ、以テ聖慮ヲ安ンジ奉ランコトヲ期セヨ。
一言以テ式辭トス。

昭和十九年九月二十五日

東京音樂學校校長從二位勳三等 乘杉 嘉壽

(手書き) (祝辭弔祭文案)

(十六) 学校建物借り上げ使用

東十八五六警第四一號

学校建物借上使用ニ關スル件照會

昭和拾九年十一月拾六日

東部第七八五六部隊長印

東京音樂學校長 殿

首題ノ件警備上ノ必要ニ基キ左記ニ依リ十一月二十一日以降借上使用致度ニ付何分ノ御高配相頻度照會ス

追而正式契約ニ關シテハ上司ヨリ直接連絡アル筈ニ付申添フ

記

常置員分屯ノ豫定ナルモ當分ノ間ハ兵器被服其ノ他ヲ常時格納シ、近衛兵ヲ附ス 警報發令ノ以後ハ兵力ヲ分屯ス

發總一一七號

昭和十九年十二月三十日

文部省總務局長印

官公私立大學高等專門學校長 殿

學校校舍轉用ニ關スル件

標記ノ件ニ關シテハ種々御配慮ヲ得來リタル處現下空襲ノ狀況ヨリ見テ敵ノ我ガ航空工業ノ壞滅ヲ企圖セルハ明カナルニヨリ極力學校校舍等ノ轉用ニ依リ航空機工場ノ分散疎開ヲ圖ルハ刻下喫緊ノコトニ有之又最近ノ震災ニヨリ之等工場ニシテ相當ノ被害ヲ被リタルモノアルニ付テハ本月十一日閣議ニ於テ學校ノ校舍、寄宿舎等ハ必要ニ應ジ敏速ニ之等航空機關係ノ利用ニ充ツルヤウ決定相成リタルニ付右御含ミノ上校舍轉用ニ關シ急速ニ左記ニ依リ格別ノ御高配相成度此段依命通牒ス

記

一、校舍轉用ニ付テハ、航空機關係ノモノヲ優先的ニ取扱フコトト

シ關係工場等ヨリ内協議アリタル場合ハ其ノ利用方ニ關シ積極的ニ協力スルコト

尙手續ニ就テハ當該工場ニ於テ軍需省ヲ通ジ文部省ニ正式申入レアルベキハ從前通ニ付爲念

二、利用セシムベキ範圍ハ諸種ノ事情ヲ勘案シ一應當該學校全坪數ノ概ネ二分ノ一ヲ目安トスルヲ適當ト認ムルモ實情ニ應ジ具體的ニ決定スルコト

追テ學校ガ工場ニ轉用サレタル場合ニ於テハ將來關係方面ト折衝ノ上當該學校學徒ハ配置轉換等ノ措置ニ依リ極力其ノ工場ニ出動セシムルヤウ致シ度ニ付御含ミ相成度

(自昭和十八年度至同二十年度 國有財産關係 東京音樂學校會計課)